

カルメル

霊性センターニュース

2023年7月

399号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	28
名古屋	31
キリスト教放送局F E B Cのご案内	32
諸所の企画案内	33
通信深読お申込みのご案内	38
郵送お申込みのご案内	39



心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第五十六章 自分を捨て、十字架を担ってキリストに従いなさい

1 主

《子よ、あなたが自分を捨てれば捨てるほど、私と親しく一致する。外部に何も望まなければ心の平和を得るように、自分から離脱すれば神との一致が得られる。自分自身の完全な放棄と、何の不平もなく私のはからいにゆだねることをあなたに望む。「私に従いなさい」(マタイ 9・9)。「私は道であり、真理であり、生命である」(ヨハネ 14・6)。道がなければ歩めず、真理がなければ知ることなく、生命がなければ生きられない。私はあなたが歩むべき道であり、信じるべき真理であり、終わりのない生命である。私はまっすぐな道であり、最高の真理であり、まことの生命、幸福の生命、永遠の生命である。「私の道にとどまるなら、あなたは真理を知り、真理があなたを解放し」(ヨハネ 8・32)、永遠の生命を得るであろう。》

2 幸せな者

「生命に入ろうと思うなら、私の掟を守りなさい」(マタイ 19・17)。真理を知ろうと望むなら、私を信じなさい。「完全になりたいと望むなら、持ち物のすべてを売ちなさい」(マタイ 19・21)。私の弟子であろうとするなら、自分を捨てなさい」(ルカ 9・23、14・27、マタイ 16・24 参照)。永遠の生命を得たいなら、現在の生命を無視しなさい。天においてほめたたえられることを望むなら、この世で小さな者となりなさい。私と共にみ国に入ろうと望むなら、私の十字架を負いなさい。実に十字架のしもべだけが、幸福と真の光の道を見いだすのである。》

3 子

《おお、主イエスよ、あなたの歩まれた道は、世間の軽蔑を受けている狭い道ですが、私もそれを歩き、世間から軽蔑され、あなたにならう者にさせてください。実に「弟子は先生以上のものではなく、しもべは主人以上のものではない」(マタイ 10・24)のです。あなたのしもべは、あなたの生き方にならって修行すればいいのです。そこには救いと聖性があるからです。あなたの福音以外に読むことや聞くことは、十分に私を慰め、喜ばせ得ないのです。》

4 主

《子よ、あなたは以上のことをすべて悟ったのだから、それを実行すれば幸せである。私の掟を保ち、それを守る者は、私を愛する者である。私を愛する者は、私の父に愛されるだろう。また、私もその人を愛して自分をあらわすであろう(ヨハネ 14・21 参照)。そして、その人を私と共に、父のみ国に座らせるであろう(黙示録 3・21 参照)。》

一見したところ

あるいは本当に 希望がない時、
それはマリアの「時」です
マリアはまったき母であり、
母以外の何ものでもないからです

*～福者マリー・エウジェンヌ神父 ocd～

- 16日 カルメル山の聖母
- 20日 聖エリヤ
- 26日 聖マリアの両親、聖ヨアキムと聖アンナ



自分の身に起こることは、順境も逆境も、

すべて神からくることを憶えていなさい。
それは順境のときに思いあがってしまったり、
逆境のときに打ちひしがれたりしないために。

～十字架の聖ヨハネ～

私たちはいろいろな出来事にあたって一喜一憂します。
順境にあるときには、神は恵みを注いでくださったと喜び、
逆境にあっては神から見放され、神はそのみ手を退かれたと憂いがちです。
順境においても、逆境においても
「私はあなたとともにある」と言われた主の言葉を思い出したいものです。

忠実にあなたのまなざしを神にとどめていなさい・・・
何らかの障害が

あなたを神から切り離しているように思えるときにでさえ。

*～福者マリー・エウジェンヌ神父 ocd～

どんな状況にあっても心のまなざしを神へと向ける、
この絶えることのない神とのかかわりは私たちの信仰生活に欠かせない態度です。
常に心のまなざしを神にとどめること・・・
祈りにおいて培うこの信仰のまなざしを日々の生活の中で
さらに深めていくことができますように。



伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

*「神と親しく生きる いのりの道」聖母文庫、聖母の騎士社

創造主への賛美（66）

くのり
九里 彰

前回、人間の優劣は、神の前では、言わば地球の表面上の凸凹（約2万メートル）のようなものだとし、それに捕われなくなるこそ、「信仰の世界」に入ることだと、述べた。だが、それは、凸凹を否定することでは毛頭ない。現実には、その凸凹はなくなるからである。

この世には、実にさまざまな人間が存在している。能力においては、言うまでもなく雲泥の差が生じる。優れた人もいれば、そうでない人もいる。これらと比較することにより、優越感劣等感が生じてくるわけだが、「信仰の世界」に入ると、この比較が実に馬鹿馬鹿しいことに思われてくるのである。

テレーズは人間を自然を彩る花にたとえ、すべての花が、それぞれ、その固有の美しさをもって、天地の造り主である神を讃えているとしている。「バラやユリ」のように人目を引く華やかな花であろうと、「すみれやひな菊」のように小さな目立たない花であろうと、皆、一様に神を賛美しているのだと。

それは、きわめて大雑把な言い方をすれば、すべての人が「神の子」だということに還元できるのではないだろうか。つまり、すべての人は、根本的に神よって生まれ、神によって支えられ、意識しようがしまいが、絶えず神の現存によって生かされているのだということである。

ここから花の美しさの問題にもどれば、「バラやユリ」の美しさも、「すみれやひな菊」の美しさも、皆、神の美しさの反映だということになる。個々の花の美しさ后感嘆することと、すべての花を造られた神の美しさを賛美することとは、相対立するものではない。個々の花の美しさのうちに、神の美しさが輝き出ているからである。

人を眺める時、私たちはとかく比較しがちである。学歴や職業、社会的地位や業績など、さまざまな尺度で人を高く評価したり、低く評価したりする。その人自身を、その人固有の美しさを見ようとはしない。だが、その人だけにしかない美しさ、そこに現われている神の輝き――仏教的には「天上天下唯我独尊」ということになろうか――を見るには、「悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」天の父のまなざしが必要とされているように思われる。この世のまなざしではなく、信仰のまなざしである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (181)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

十字架と栄光 (2)

そこで使徒はこう言うのです。『いったいあなたの持っているもので、いただかなかったものがあるでしょうか。もしいただいたのなら、なぜいただかなかったような顔をして高ぶるのですか』(1 コリ 4:7)。とはいえ、苦難や苦悩の十字架において、私たちは誇る事ができるのです。なぜならそれらは私たちの事柄だからです。それゆえ、使徒はこう言うのです。『しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほか、誇るものが決してあってはなりません』(ガラ 6:14)。この十字架に、名誉と栄光が今もいつも世々にありますように。アーメン。

けれども二人の(訳注:アシジの聖フランシスコと十字架の聖ヨハネ)のこぼれ話は、私たちにさらなる考察をひきおこします。

完全な喜びを十字架の中や苦しみの中に置くか探し求めねばならないということ以上に、キリスト教的な考えや教えもないでしょう。

完全な喜びは、実に苦しみの中に、キリストによって遂行され、抱きしめられた殉教の中に見出され、また見出されなくてはならないのです。それは、——フランシスコや十字架のヨハネの場合に顕著なように——苦しみがキリストに似た者としてくれるからです。「その苦しみあずかって、その死の姿にあやかりながら」(フィリ 3:10)、キリストに似た者となって行くために、またこの望みを生きるためなのです。これこそ福音であり、喜ばしい良い知らせなのです。

二人の聖人、フランシスコや十字架のヨハネは、燃えるような心で殉教を望みました。

十字架のヨハネの場合には、すでにマルティン修道士の言葉を聞きました。これに加え、他の証言としては、列福裁判の第17番目の問いに答えた証人たちの陳述*を付け加えることができるでしょう。(続く)

*BMC14, 26. 172. 180.

(P. 九里)

年間 第13主日 (A)

(マタイ 10 : 37-42)

「自分の命を得ようとする者は、それを失い、
わたしのために命を失う者はかえってそれを得るのである。」

本日のマタイの福音で私たちは、深い教訓を読みとります。主はいくつかの点を強調されています。キリストの真の弟子は、キリストのために自分自身を全部捧げなければならないということです。生活の中の十字架を受け入れましょう。キリストに従う人や、困っている人に情け深く手助けする人は誰でも神からご褒美を頂けるでしょう。

私たちは、実際にキリストに従うために捧げる何を持っているでしょうか？ イエスに従うのは容易なことではないでしょう。犠牲や、イエスのために全てを明け渡し優先する生活、隣人への愛する振舞いを伴います。イエスか、他の価値あるものかのどちらかを選ぶ時が来たとき、キリスト者の選択はどうすべきでしょうか？ イエスを選ぶことと十字架までイエスに従うことは、損失ではなく利益なのです。実際に、自分自身と自分の安全や財産をひどく心配すると、その人は真の命を失うことになりませんが、神のみ旨に従順に生き、自分の生活を兄弟姉妹のために愛の贈りものとすることを受け入れるとき、命は豊かであることに気づきます。これこそ、イエスが「自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者はかえってそれを得る」と言われていることです。

私たちはキリスト者の信仰の信念に従って生きなければなりません。私たちはこの世界には短い時間存在し、私たちの真の家は天にあるのです。私たちはこの考えを自分の全ての行いやふるまいにおいて十全に保たねばなりません。個人的な義務において兄弟姉妹の霊的な必要を思い出さなければなりません。主の言葉を思い出しましょう：預言者を預言者として受け入れる人は預言者と同じ報いを受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。キリストの約束を思い出しましょう；一杯の冷たい水であってもかならず報われる、また仲間を天の國に連れていくためにおこなった全ての小さな手助けは同じゴールに向かって私たちを助けてくれます。天の國が私たちの人生の真のゴールです。これのみが私たちの望みを満たし、これのみが永遠に続くでしょう。

(Sr. Paulina)

年間 第14主日

(マタイ11：25-30)

イエスは、人々に沢山の言葉を語られただけではなく多くの奇跡を行われ、ことばと行いによって、神から来られた方であることを証しされました。神の国について、神の救いについて宣べ伝え、人々が神に立ち返る様に、悔い改める様に宣教されましたが、数多くの奇跡の行われた町々が悔い改めないため、叱り始められた時にお話しになられたのが今日の福音です。

イエスが人々にお話しになり、人々に宣べ伝えられた神の国、神の救いは、ユダヤの社会の中であって、知恵ある者や賢い者、イエスを受け入れようとしないうダヤ人たち、ファイリサイ派の人々に隠され、理解されず拒絶されるままになっていました。これに対して、幼子のような者、弱い人々、誰かに頼って生きている人々、その様な人々は、神に信頼しながら歩んでいる人々…と言えるでしょうね。それらの人々に父なる神は、ご自分の神の国、救いについてイエスを通して示されたことをイエスは語られます。

父なる神を知っているのはどの様な方でしょうか。神の国のことを知っているのは、救いについて知っているのはどんな方でしょうか。それは何よりその父なる神の独り子、人となられた神のみことばイエス・キリストですね。イエスご自身、みことばの中で、父のほかには子を知る者はなく…と仰っておられます。そして更には子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいませんとも言われました。イエスが示そうと思う者、それは幼子のような者なのでしょうね。

さて私たちは一体どの様な者なのでしょう。私は一体どの様な者なのでしょう。もしかして全てのことを知っており知恵がある、賢い者と思っているかも知れません。もしそうだとすると、自分の力で何かをしようとして、自分の力で救いに達しようとし、福音を受け入れること、信じることができなくなってしまっているかも知れません。

私たちはイエスが言われる様に、幼子のような者でありたいと思います。神に全てをより頼み歩んでゆくことができます様に。その様な中でイエスに学んで歩んで行くとき、イエスから安らぎを得ることができるのですね。この言葉への信頼、イエスへの信頼のうちに歩みましょう。イエスからいただく軛、イエスが与える掙は、負いやすいもの…。それを喜んで担い歩みゆく中で、イエスが私たちに父を示して下さり、私たちが父なる神を知ることができます様に。

(Fr. 古川利雅)

年間 第15主日 (A)

(マタイ13:1-23)

「ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい」

イエスは、たとえ話を通じて教えられました。たとえとは、天上の意味を持つ地上に関する話です。イエスは、神の国の神秘を、種を蒔く人、種、そして色々な種類の土地という農業にまつわるイメージを用いながら説明されました。イエスは、皆になじみ深い日常的な事柄を使って、人々の永遠の救いを願うキリストのメッセージを伝えました。

良い種蒔きのたとえ話を読むと、この種蒔く人がどんな土地(道)にも自由に種を蒔くとても寛大な人であることが分かります。種蒔く人にとってどの土地(道)も大切なのです。ここに福音のメッセージが込められています。つまり天の国では、石や茨だらけの土地に対する排除、隔離、差別がありません。良い種蒔きである神は、すべての土地に種を寛大に蒔き続けます。種を蒔くことに決して飽きることなく、土地の性質に落胆することはありません。

このたとえ話には、人間が理解できていない神の無条件の愛が示されています。石だらけの土地のような固い心や茨でふさがれたような悪意に満ちた心の持ち主、万人がたどる道のように気まぐれな人、時季が来ると豊かな収穫をもたらす良い土地のような人、など人間は千差万別です。毎日、良い種蒔きは、土地(道)がどんな性質であれ、種を忍耐強く蒔きます。種蒔きは、どんな土地にも種を成長させることができるのです。岩だらけの土地、茨の間、歩道に植物が生えているのを見かけると、「どうやって種が成長したのだろう？」と私たちは不思議に思いますが、神に協力さえすれば、成長して実を結ぶことは可能なのです。

私たちが自分の良心を究明して、自分がどんな土地に属しているかを発見するようにと福音は招いています。私たちのいつくしみ深い神の寛大さに感謝し、成長して実を結ぶために多くの機会が与えられた時、神に協力できるように願いましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第16主日 (A)

(マタイ13:24-43)

今日の福音は「毒麦のたとえ」と言われている箇所です。良い種を蒔いたはずなのに、良い麦の他に毒麦も生えてきました。誰か分からないけれども悪意を持った人が原因とされています。たとえの中の僕たちが、「行って抜き集めておきましょうか」と尋ねると、主人は、「いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、『まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい』と、刈り取る者に言いつけよう。」と答えました。この主人の思いが御父なる神様の思いでしょう。

私たちは、たとえ状況が変わって、人間関係が変わっても、常に、完全にスッキリと悩みなく、問題なく過ごすことは中々できないのだと思います。以前悩んでいた大きな問題が解決されても、また別の問題で悩みます。その悩みは大抵、人間関係でしょう。あの人のやり方はあまりにもおかしい、他者を傷つけるように見える。他者には要求するが、自分は守らない。権力を持っていなければ何の問題もないが、権力を持っているがゆえに組織を滅茶苦茶にする。そのように思える人間関係はもしかしたら多くの方が抱えていて、逃れられないものなのかもしれません。その当事者が自分と同じ空間、環境にいれば悩みは大きいでしょうが、たとえその人と離れても、未だにその人によって人が苦しんでいる状況を聞けば、やはり心中穏やかではないでしょう。このような状況がなぜ続くのか、解決すべき立場にある人がなぜトラブルを避けて解決しないのか、と思えるような時があります。

今日のたとえ話は、私たちに目には、最後まで何が良いものとして働くのか分からないことを教えてくれます。自分の目に毒麦と映るものが、もしかしたら何らかの救いの契機になるかもしれません。神様は、人の罪、悪意さえも、救いのご計画の中で利用されることがあります。いずれにしても、最後は、悪は焼き払われ良い麦は刈り入れられます。神様の救いのご計画の最後は、シャロームです。自分の中の、自分には見えない毒麦をも、神様が様々な出来事を通して最終的に焼き尽くし、シャロームへと至らせてくださるでしょう。目の前の状況はよく分からないことが多いですが、神様の計らいに信頼して生きましょう。

(P. 志村)

年間 第17主日

(マタイ13：44-52)

今週の福音は、先々週、また先週に引き続いてマタイ福音書の13章が読まれます。この13章は「天の国のたとえ」と呼ばれており、天の国についてこれまでたとえで、「種を蒔く人」「毒麦」「からし種」と「パン種」のたとえ話が語られてきましたが、今回はその中でもメインの様にも思われる「天の国のたとえ」となります。

イエスは言われます。畑に隠されている宝を見つけた人は、宝をそのまま隠しておき、持ち物をすっかり売り払って畑を買うと。また同様に、高価な真珠を一つ見つけると、持ち物をすっかり売り払いそれを買うと。それほどまでに持ち物を全て売り払ってでも手に入れたいと願うものが神の国。どれほど大切なものであるか、貴重なものなのか、喜びをもたらすものなのかということかが語られ、強調されます。

その様な中で、イエスは次に、網が湖に投げ降ろされて、色々な魚を集めるたとえを話されました。そして単純に天の国に入れるのではなくて、良いもの、悪いものをより分けられ、悪いものは投げ捨てられると。そしてさらに今までは様々な物や生きもので語った様なたとえ話ではなく、率直に具体的に人間について語られました。

世の終わりには天使たちが来ること、正しい人々の中に悪い者がおり、その悪い者が人々の中からより分けられ、悪い者どもは燃え盛る炉の中に投げ込まれ、泣きわめいて歯ぎしりするだろうと。

私たちにとって、天の国はどのようなものなのでしょう。ひとりひとりにとって、どのようなものなのでしょう。しっかり心に留めて考えることができればと思います。イエスがお話しになられたたとえ話の出来事のように、持ち物をすっかり売り払って、宝の土地や真珠を買う人のように、天の国を望んでいるのでしょうか。天の国に入るため、良い生き方をしているのでしょうか。

神の子となった私たち。天の国に向かって歩んでいる私たち。神の子として相応しく歩んでゆくことができますように。一日一日大切に過ごしてゆくことができますように。神の恵みといつくしみが豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

糸巻き棒からペンへ(88)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

祈りの第四の段階は、畑の上に雨が降る時のようです。大地はさらに湿り、園丁はまったく働きません。こうして神はこの神的一致の中でご自分を伝えられようとする時、靈魂を高め、ご自分の内へと導かれ、神のいのちや愛や交わりに与らせるのですが、靈魂は、味わっていることを理解することなしに、それを味わうのです。王さまの愛に満ちた口笛を、(城の住人である)諸感覚や諸能力が耳傾けていることを説明いたしましょう。静かな口笛はほとんど理解できないほどですが、靈魂はその調べに引き寄せられ、関わっているすべての外的な事柄から離脱していくのです。そうして城の中に入り、主に仕えるために、しなければならぬあらゆることにたずさわり、すべてを造られた主のために仕事を果たしていくのです。知性は神の言い表すことのできない神秘を知り、記憶は神の現存に満たされ、意志は、使徒が「もはや自分が生きているのではなく、キリストが自分の内に生きておられるのです」と言うほどに、キリストの意志と一つになるのです。

意志の一致

祈りの中で、すべての人が喜びを得るわけではありません。それは、主が望む人に、また望む時に与えられるのです。主からきわめて超自然的な賜物を与えられない人々が、希望なしでとどまらないでいることはよいことです。なぜなら、すべての人は、すべてにおいて神の意志を成し遂げたいと望みつつ、神との一致に達しようと努力するならば、主の恵みによって、とてもよく真の一致へと到達できるからです。それはまた、私が生涯を通じて望み続けた一致です。私は常にそれを主にお願ひし、それはますます明らかで確実なものとなっています。
(P. 九里訳)

いのちの言葉 7月

キリストの弟子だという理由で、
あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。¹
(マルコによる福音書 9・41)

福音史家マタイは、とても高度な教育を受けたキリスト者であり、イスラエルの神の約束を熟知していた人でした。彼にとってイエスの言動すべては、神の約束の成就に他なりません。そこでマタイは、福音書の中でその教えを5つの偉大な説話として表すことで、新たなモーゼとしてイエスを提示しています。

今月のみ言葉は、12使徒の選出から始まる「宣教についての教え」を締めくくる箇所、宣教の必要性が語られています。弟子たちが遭遇することになる誤解、苦難・迫害にあって彼らに求められるのは信仰の証人(あかしびと)となること。それは又、神を徹底的に選ぶことによっても示される証しです。

しかし、それだけではありません。イエスは、弟子たちの派遣の根源が、ご自身が御父から受けた使命にあることを明らかにされます。神が遣わされる使者のうちに神ご自身が存在され、神はその人の内で働かれるという確信は、旧約時代からのものです。したがって、イエスとイエスが遣わす人々の証しによって、神の愛は全ての人々に行きわたっていくのです。

キリストの弟子だという理由で、
あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。

イエスは、使徒、牧者、預言者など特定の使命を受けた人だけではなく、すべてのキリスト者はイエスの弟子であり、イエスの使命を受け継ぐ者・その担い手であると宣言されます。弟子として、特別な資質もなければ何の肩書きもない「小さな者」のようであっても、私たちは皆、つねに傍にいて下さる神の存在を証しすることができます。実に、キリスト者共同体全体は、すべての人の父である神によって、人類に遣わされているということです。

私たちは誰もが、兄弟姉妹を通して、神から目を留められ、配慮され、許され、信頼を受けた経験があります。ですからイエスが宣教を通してなされたと同じように、御父の優しさを誰もが体験できるように、私たちも何かを人々に与えることができるでしょう。なぜなら、たとえ「小さなこと」であったとしても世界を変えることができるという確かな根源が父なる神のうちにあるからです。それが、たとえコップ一杯の冷たい水であったとしても、です。

キアラ・ルービックも語っています。「与えるものが多いか少ないか、それは問題ではありません。大切なのは『どのように』与えるか、です。相手を思いやって行う小さなことの中に、どれほどの愛を注ぐことができるか、なのです。マタイ福音書が語るように、時には一杯の『冷たい水』を与えるだけで十分なのです。…何気ない行いであっても、神の名において、愛のために行うならば、神の目には偉大な行為と映ります。…今月のみ言葉は、行い一つひとつにある価値を私たちに再発見させてくれるでしょう。家事をする時、田畑や工場、オフィスで

働く時、学校の宿題をする時、社会・政治・宗教面での務めを果たす時にも、そのすべてを「心遣いと思いやりの奉仕」へと変えることも可能だからです。愛そうとする時、私たちには新しい目が与えられるので相手の必要を察し、色々なアイデアによって人を助けることもできるでしょう。ではそこからどんな実りが生まれてくるのでしょうか？ 愛は愛を呼び覚まします。私たちの愛に対して、相手も愛で応えてくれるようになり、『受けるよりは与える方が幸いである』²と福音にあるように、喜びは何倍にも大きくなって広がっていくことでしょう。」

3

**キリストの弟子だという理由で、
あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。**

イエスは、私たちに、神の愛の流れを決して妨げないようにと求められます。偏見を持ったり自分の判断にとらわれたりすることなく、心を開いてすべての人に手を差し伸べ、奉仕するよう求めておられます。

神は、私たちが日々の小さなことにも積極的に、創造的に、また責任を持って共通善のために取り組んでいくことをお望みです。そうするなら、神は必ず私たちに豊かに報いてくださるお方です。いつも私たちの傍にいて、与えられた使命を私たちがよく果たせるようにきっと助けて下さいます。

ある人の体験です。「…私はフィリピンでの仕事を辞め、家族のいるオーストラリアに移住しそこで建設現場の清掃員の仕事に就きました。食堂、更衣室、事務室、さらに500人以上の人が使う大食堂の清掃が私に任された仕事です。以前エンジニアとして働いていた頃とはまったく異なる経験でしたが…ここに来る人たちのために食堂をいつもきれいにしようと心掛けました。中には掃除には無頓着な人もいましたがその人の中におられるイエスを愛する良いチャンスと思い、忍耐を失わないようにしました。そのうちに何人かが食事の片付けを手伝ってくれるようになり友だちになりました。彼らは私に信頼と敬意を示してくれました。…私にとって、本当に愛はしげんに他の人に伝わっていくもの、愛のために行うならいつまでも残るといった体験でした。」⁴

レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編集チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. 使徒言行録 20.35
3. キアラ・ルービック、いのちの言葉 2006年10月
4. S. Pellegrini, G. Salerno, M. Caporali 編纂、行動する家庭 - チッタ・ノーバ誌 2022年 p.55.

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年6月3日

跣足カルメル修道会 台湾—シンガポール地区で 荘厳誓願式と助祭叙階式の祝賀

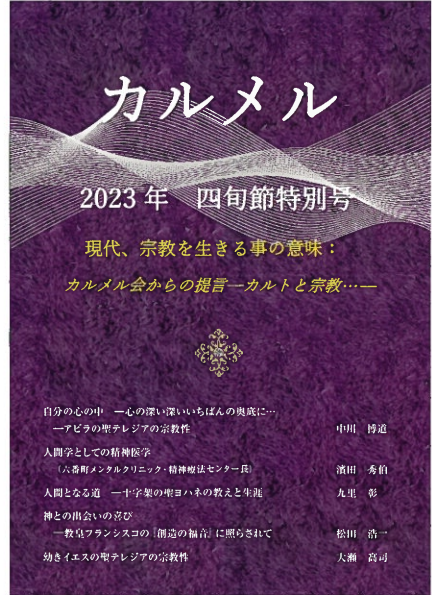




跣足カルメル修道会 台湾—シンガポール地区の修士たちは、同じ会員のブラザー ベネディクト メリー、ブラザー レジナルド マリー、ブラザー バルトロ マリアの3名の荘厳誓願式と助祭叙階式で二重の喜びの機会を祝いました。荘厳誓願式は、2023年3月19日に、助祭叙階式は同年5月5日に執り行われました。これら二つの式の荘厳ミサは、シンガポール大司教区の聖ペトロ・聖パウロ大聖堂で捧げられました。助祭叙階式ミサで修士たちは、跣足カルメル修道会総長顧問のクリスチアヌス スリノノ神父から祝福を受け、そしてシンガポールの大司教 ウイリアム ゴウ枢機卿は、修士たちに助祭叙階を受けました。

この3修士たちの喜びは、訪れた全ての人々が招かれたミサ後の祝賀会で、盛大に分ち合われました。

(訳・注:小宮山延子)



2023年 夏号 No.389

《共に歩む—パンデミックの世界の中で》
マリア的シノダリティ— ポーリン・フェルナンデス

カルメルの外のカルメル
—教会の外から見られたアピラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(2) 鶴岡賀雄

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の霊性(2)
ウィリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の霊は導く(6)
—テレーズ生誕(1873~1897)—五〇周年を迎えて
伊従信子

風に吹かれて再び(4)—現代若者考 原 造

平和への道(2) 九里 彰

霊的研究会講義録(20)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2023年 特集号

現代、宗教を生きる事の意味：
カルメル会からの提言—カルトと宗教—

自分の心の中—心の深い深いいちばんの奥底に…
—アピラの聖テレジアの宗教性 中川博道

人間学としての精神医学 濱田秀伯

人間となる道—十字架の聖ヨハネの教えと生涯 九里 彰

神との出会いの喜び
—教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて
松田浩一

幼きイエスの聖テレジアの宗教性 大瀬高司

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

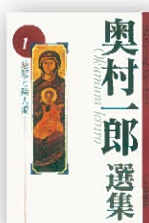
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

奥村一郎選集



カトリック教会は、第二バチカン公会議において、世界の諸宗教・諸文化にも開かれた福音の現代的意義を世界に宣揚した。その精神を深く一身に体現した靈性指導者、それが奥村一郎師である。幼子のような無と赤裸の心で神を求めるカルメル会靈性を深めつつ、禪仏教をはじめとする東洋的靈性との対話に生涯を懸け、日本人の心の琴線にふれるキリスト教を語った。分かつたことのない心で、「すべて」である神へ。



第1巻

慈悲と隣人愛

解説：西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読む

み、キリスト教の本質理解に近づく。



第2巻

多文化に生きる宗教

解説：橋本裕明

宗教対話と靈性交流から得られた柔軟な視点から、日本での

新たな宣教の可能性を示す。



第3巻

日本の神学を求めて

解説：小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の視点

点である相互愛から問いかける。



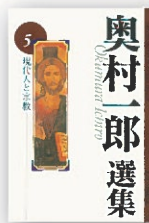
第4巻

日本語とキリスト教

解説：阿部仲麻呂

関係を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、こ

とばと信仰の関係を再考する。



第5巻

現代人と宗教

解説：鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教は

どう向き合っていけるのか。



第6巻

永遠のいのち

解説：八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極

め、永遠のいのちへの道を探る。



第7巻 品切れ

カルメルの靈性

解説：高園泰子

カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通

して、その靈性の根源に迫る。



第8巻

神に向かう〈祈り〉

解説：高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教

の祈りの本質を明らかにする。



第9巻

奉獻の道

解説：宮本久雄

すべての人にみずからを与えつづす奉獻生活を通して、

人間そのものの神秘を見つめる。

全9巻（第7巻のみ品切れ） 四六判・上製／平均240頁 定価各2,200円（税込）

8冊以上で送料サービスとなります。

オリエンズ宗教研究所 TEL: 03-3322-7601 FAX: 03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンズHP、FAX、ネット書店などへ

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社◎定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 誓 愿(1)
 - 第2章 誓 愿(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対 話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一 致
 - 第17章 英 知
 - 第18章 活 動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を聖智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

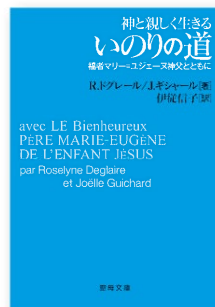
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



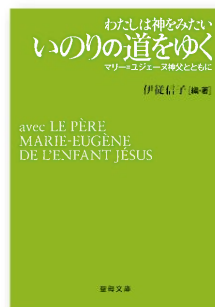
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2023年4月～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

~~2023年4月6日(木) 夕食～9日(日) 朝食 《講話なし、各食事つき》~~

【クリスマス】

2023年12月24日(日)～25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

4月29日～30日

7月 8日～9日

9月23日～24日

11月18日～19日

2024年

2月24日～25日

- ・一日黙想会(水曜日10時～16時・昼食付)——カルメル会士

《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》

~~2023年 4月19日 5月17日 6月21日 7月19日~~

~~9月20日 10月11日 11月15日 12月20日~~

~~2024年 1月17日 2月21日 3月20日 中止~~

- ・聖書から学ぶキリスト教霊性入門(木曜日10時～16時・昼食付)——志村武神父

~~2023年 5月11日 7月6日 9月21日 11月9日~~

~~2024年 1月11日 3月7日 中止~~

- ・一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

11月11日～12日

5月20日～21日

2024年

7月 1日～ 2日

1月13日～14日

9月30日～10月1日

3月9日～10日

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

2023年8月16日(水)～25日(金)

~~8月1日(火)～10日(木) 中止~~

12月27日(水)～1月5日(金)

- ・青年黙想会（男女） 35歳まで（初日16時～最終日16時）カルメル会士
2023年 ~~5月13日（土）～14日（日）~~
2024年 3月23日（土）～24日（日）
- ・召命黙想会（男女） 40歳まで（初日16時～最終日16時）カルメル会士
2023年 11月25日（土）～26日（日）
- ・カルメル会召命黙想会（男子）40歳まで（初日16時～最終日16時）
カルメル会士
2023年 4月22日（土）～23日（日）
7月22日（土）～23日（日）
10月28日（土）～29日（日）
2024年 1月27日（土）～28日（日）
- ・特別黙想会（初日20時夕食なし～最終16時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ト・ヴィイ）
2023年 ~~6月16日（金）～18日（日）~~
11月3日（金）～ 5日（日）



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ： <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内

(2023年7月～2024年3月)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

7月22日～23日 9月2日～3日 11月25日～26日

2024年

1月20日～21日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

7月1日 **変更** 9月30日→9月2日 12月16日→11月11日

2024年

2月3日

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

変更 7月26日→7月19日 9月20日 11月8日 12月13日

2024年

1月17日 2月14日 3月20日

【カルメルの靈性】 (金曜午後5時～土曜午後4時) 松田浩一神父

カルメル山の聖母 7月14日～15日

幼き聖テレジア 9月22日～23日

アビラの聖テレジア 10月13日～14日

十字架の聖ヨハネ 12月8日～9日

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

7月6日 9月14日 10月5日 11月2日 12月7日

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

追加 9月12日 10月10日 11月28日

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

8/1 (火)～10 (木) 中川博道神父

11/12 (日)～21 (火) 中川博道神父

12/27 (水)～1/5 (金) 中川博道神父

2024年

3/4 (月)～13 (水) 中川博道神父

新企画

【男性のための黙想会】 中川博道神父

1 1月22日（水）～23日（木）…22日は夕食を済ませ21時までにおいでください。

新企画

【青年男女のための黙想会】（35歳以下） 松田浩一神父

1 泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可）

1 10月7日（土）～8日（日）

1 11月4日（土）～5日（日）

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしておりますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

~~4月13日~~ ~~6月1日~~ **終了** 7月6日 9月14日
10月5日 11月2日 12月7日

「祈りの学校 入門編」

すべて火曜日 10:00～16:00

~~5月23日~~ ~~6月27日~~ **終了**

追加 9月12日 10月10日 11月28日

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性 —キリストの十字架の恵みをより味わうために—

日時：2023年9月2日（土）14：30～16：30

テーマ：原初史②（創世記2－3章）

主な内容：他者との出会いと神との出会い、
救いの場としての塵性と裸性、
いのちの木の回復としてのイエス・キリスト

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

【以降の予定日】（土曜日14：30－16：30）

2023年10月21日、11月18日、12月16日

2024年1月20日、2月17日、3月16日

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2023年9月30日14：00～17：00

テーマ：リジューの聖テレジア、生誕150周年を記念して

講話担当：今泉健神父

【スケジュール】

14:00～14:20 初めの祈り、14:20～15:20 講話、15:20～16:15 ご聖体顕示、
念祷、面談、16:15～ミサ

【以降の予定日】2023年12月2日、2024年3月9日

2023年 春夏
2023.4~9

番組案内

AMラジオ放送
インターネット放送

AM1566kHz 毎夜9:30~
〈全国放送〉
www.febcjp.com 〈毎日更新〉

キリスト教放送局
FEB C

日

夜9:30~



主日礼拝取材番組

全地よ 主を
ほめたたえよ

- [第1]日キ教会 高知旭教会
- [第2]日基教団 小岩教会
- [第3]ホーリネス 東京中央教会
- [第4]日基教団 久万教会
- [第5]日基教団 石動教会



神からの
メッセージ
—グレゴリオ聖歌—
橋本周子
聖グレゴリオの家・
宗教学研究研究所長

月

[月~金] 夜9:30~

FEBCTODAY—今日の聖書・今週の讃美歌—

恵子の郵便ポスト

FEBメイン・パーソナリティー 吉崎 恵子

火



夜9:48~
聴く 信仰
「いのち」を
をいただく
御言葉黙想

山内十束

カトリック・御受難修道会、
宝塚黙想の家司祭

夜10:14~

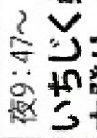
Echo of
Voices

長倉崇宣



夜10:28~
御足の
跡を
小池与之祐
日基教団神の愛
キリスト伝道所 司祭

水



夜9:47~
いちじく桑の
木登り
—わたしの
教理問答
(再)—

石居基夫

福音ルーテル教会
牧師、ルーテル学院
大字長
お相手・吉崎 恵子

夜10:14~

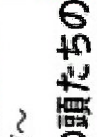
主に向かっ
て
歌おう
飯靖子

日基教団聖南成教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:28~

弱さを
捧げる者と共に
—Sr.阿の祈りのエッセイ
聖母の騎士修道女会会長

木



夜9:47~
罪人の頭たちの
聖書のことば
石垣弘毅

伊藤治哉

ルーテル同因
石巻希望の家 牧師

夜10:00~

旅の音、
心の音(お)

関野和寛

福音ルーテル教会
牧師、チャペリン

夜10:28~

聖書を聞こう
山下正雄
RCメディア・代表
ミニストリー代表

金

[第1]
夜9:30~

M・ルターの「み
『キリスト者の自由』
(再)

徳善義和
福音ルーテル教会元牧師、
日本ルーテル神学校名誉教授

石居基夫
福音ルーテル教会
牧師、ルーテル学院
大学学長

吉崎恵子

[第2]夜9:37~

Echo of
Voices

[第2]夜9:47~

FEB C 特別番組
「共に生きる」(再)

[第2]夜10:22~

十字架の道を
共に生きる

[第3・4]夜9:37~

生きるとは、
キリスト

小林和夫
ホーリネス
東京聖書学院 教会牧師

[第3・4]夜10:22~
Meguro
CCM insight!
Genuine Grace ホーカル

土

夜9:30~
新
一期一会の
みことば



加藤智
カトリック・
さいたま教区司祭

夜9:53~

Kishiko
の
ひとりじゃ
ないから

コスベルシンガー

[第1~3]
夜10:04~

コーヒー
ブレイク・
インタビュー

[第4・5]
夜10:04~

交わりの
ことば

夜10:31~

御心の響き
服部みぎわ

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）
2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）
3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）
4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）
6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）
7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）
8月 休み
9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）
11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）
12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）



・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
札幌 フォローアップ	8/24(木)9:30- 25(金)18:00	Fr植栗	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間 攝子 Tel080-3260-1864
札幌 I & アドバンス	8/26(土)9:30- 27(日)18:00	同上		本間不在時 山崎有紀 Tel090-4720-2157
信越 サダナ	9/8(金)9:00- 10(日)15:00 (前泊可)	同上	御聖体の宣教クララ 修道会 軽井沢修道院 (北佐久郡軽井沢町)	久喜ますみ Tel090-7842-9402 masumi.kyuki@ gmail.com
広島 サダナⅡ	9/15(金)9:00- 18(月)16:00	Fr 植栗 Fr アレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel082-239-0034
仙台・福島 フォローアップ	9/21(木)9:00- 22(金・祝)18:00 *前泊、継続宿泊、 通い可	Fr植栗	ラ・サール会仙台修道院 (仙台市宮城野区)	長尾 雅子 090-3647-4135 0az2.540787230a@ ezweb.ne.jp
仙台・福島 I & アドバンス	9/23(土・祝) 9:00- 24(日)18:00	同上	同上	同上
入門 A	10/1(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※ Tel090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



慈しみ深き会

祈りの集い



～沈黙の内に神を求めて～

神の現存を身近に感じたい、沈黙の内に神との親しい交わりを体験したいと、魂の奥底で感じていらっしゃいませんか。もしそうならば、ただひたすら神のみに心に向け、自分の全存在を捧げて神と共に過ごすひとときを、ご一緒しませんか。

イエズス会の故ウイリアム・ジョンストン神父様は、信徒のために10年以上もご聖体の前で沈黙の内に祈る場を、毎週土曜日、提供してくださっていました。私たちはその神父様の思いを大切にしていきたいと、この祈りの集いを2011年に始めました。

故ジョンストン神父様の『愛と英知の道～すべての人のための霊性神学～』（サンパウロ）についての講話を聴いた後、沈黙の内にひたすら神に向かって共に祈ります。広いお部屋が準備されていますので、隣の人を気にすることなく祈れます。

日時：7月13日(木)13:00～15:00

9月14日(木)13:00～15:00

場所：麴町教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

指導：九里彰神父(カルメル会)

対象：どなたでもどうぞ 申込不要 献金歓迎

問合せ：042-473-6287 篠原(11:00～20:00)



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



***** 8月休刊のお知らせ *****

「霊性センターニュース」は、8月（号）休刊となります。

9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。